

# 26年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 1月20日～ 26年2月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
2月分の回答企業数は15社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合]×2+[「やや増加」の評価を行った回答の割合]-[「減少」の評価を行った回答の割合]×2-[「やや減少」の評価を行った回答の割合]÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 29.2	△ 25.0	△ 20.8
	マツ	△ 31.8	△ 40.9	△ 36.4
	広葉樹	△ 16.7	△ 16.7	△ 23.3
消費動向	スギ・ヒノキ	8.3	12.5	8.3
	マツ	0.0	△ 10.0	△ 15.0
	広葉樹	△ 10.7	△ 3.6	△ 3.6
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 46.2	△ 38.5	△ 38.5
	マツ	△ 40.9	△ 50.0	△ 45.5
	広葉樹	△ 23.3	△ 26.7	△ 33.3

チップ用国産原木の入荷は、いずれも減少傾向で推移。

スギ・ヒノキ原木の消費はやや増加傾向、マツ及び広葉樹原木は横ばい、ないし減少傾向で推移。

在庫はいずれの樹種も減少傾向で推移。

### (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
スギ・ヒノキ	0.0	11.5	3.8
マツ類	0.0	4.5	4.5
広葉樹	3.3	6.7	6.7

スギ・ヒノキ及びマツ原木購入価格は2月の横ばいが3、4月はやや強保合に、広葉樹はやや強保合で推移。

## モニターからのコメント

(原木荷動き)  
 ・スギ・ヒノキ原木の仕入れは山林労働者の減少、積雪、B材の高値で減少。マツ原木は原木山の使用減で出材悪い、広葉樹は横ばい。消費はいずれも変動無し。在庫はいずれも入荷減で減少。  
 ・針葉樹原木は国有林からの入荷が1月で終了し、2月以降減少の見込み。広葉樹原木は積雪も少なく予定通り入荷している。スギ・ヒノキ原木在庫は4カ月が3カ月に、マツが3カ月が2.5カ月に減少、広葉樹は2カ月が3カ月に増加。  
 ・仕入れは、天候(雪)の影響が予測される。消費、在庫は変動なし。  
 ・広葉樹原木は1月末より入荷増。消費は原木在庫を見極めながらの生産。在庫は入荷が順調で少しずつ増加して行く。  
 ・スギ・ヒノキ及び広葉樹原木は、4月からの消費増税のため伐採業者が建築用材指向でチップ材の入荷悪い。大手建材業者によれば、3月一杯でできないものは4月以降にずれ込むとのことで4月以降もこの状態が続く様子。このような状況なので、需要が上向いても現状の出荷価格では対応は難しい。  
 ・2月は雪のため入荷少ないが3月頃より少しずつ多くなり、4月下旬より荷動きが活発になると予想。  
 ・スギ及びヒノキは民有林材が変化なく入荷、国有林システム販売が採択されれば春から入荷増の見込み。広葉樹は変化なし。全樹種ともフル稼働で消化。スギ及びヒノキ在庫は減少気味、広葉樹は変化なし、春以降システム販売材、発電向け材が増加と思う、竹の入荷が多く土場確保に苦慮。  
 ・合板に流れているためかチップ材の入荷悪い、消費は変わらず。  
 ・スギ原木生産が活発でチップ用材も増加傾向にあったが調整しながら仕入れ、逆に広葉樹の集荷が厳しい状況、仕入れ状況見ながらの生産。  
 ・針葉樹原木は雪により奥山は出材減。岐阜でFITの発電会社が施設建設を開始、三重方面にも流れている。広葉樹は開発に伴う支障木が多い。消費は針葉樹、広葉樹共チップ生産増のため原木使用量増加。入荷減により針葉樹原木在庫は減、広葉樹は横ばい。

(原木価格)

- いずれも変動無し。
- 原木仕入れ価格は、スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹共に変わらず。
- 変動なし。
- 広葉樹は先月と変わらず。
- スギ・ヒノキ及び広葉樹原木価格は、チップの出荷価格が上がらない限り上げられない。
- スギ及びヒノキは発電用丸太確保が動き始め、製紙用を上回る価格が出ている。大分、熊本でヒノキ及び広葉樹で丸太価格改定の見通し。
- 1月から広葉樹を少し値上げ。
- スギは現在、若干値下がり、広葉樹は現状維持。
- 針葉樹原木については、東海でFIT用原木買い占めの動き及び大手商社の動きもある模様。

## 26年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 8.3	△ 20.8	△ 8.3
	マツ類	△ 10.0	△ 15.0	△ 10.0
	広葉樹	△ 17.9	△ 14.3	△ 17.9
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 8.3	△ 20.8	△ 8.3
	マツ類	△ 9.1	△ 13.6	△ 9.1
	広葉樹	△ 10.0	△ 20.0	△ 16.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 27.3	△ 36.4	△ 27.3
	マツ類	△ 27.8	△ 38.9	△ 33.3
	広葉樹	△ 29.2	△ 37.5	△ 29.2

木材チップの生産はいずれの樹種も減少傾向で推移。

木材チップ出荷はいずれの樹種も減少傾向で推移。

木材チップの在庫はいずれの樹種も減少傾向で推移。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	26/2月	3月	4月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	3.3	0.0	0.0

スギ・ヒノキ及びマツチップの出荷価格は横ばいで推移、広葉樹は2月のやや強保合が3,4月には横ばいに。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

- ・生産・出荷共に製紙用は、減のまま横ばい、ボード用、燃料用は安定。
- ・変動なし。
- ・寒さ厳しくなり広葉樹の樹皮も剥けにくくなり生産が落ちる。雪道でトラック思うように走れず出荷に遅れ。チップの在庫はない。
- ・スギ・ヒノキ及び広葉樹原木は、4月からの消費増税のため伐採業者が建築用材指向でチップ材の入荷悪い。大手建材業者によれば、3月一杯でできないものは4月以降にずれ込むとのことで4月以降もこの状態が続く様子。このような状況なので、需要が上向いても現状の出荷価格では対応は難しい。
- ・全樹種とも製紙用にフル生産、特にスギ、ヒノキで増産依頼がある、竹もできるだけ生産。燃料用は価格に見合う原料少なく納入数量減。
- ・スギチップ加工製品(家畜粗飼料・敷料)の注文に応じた生産、広葉樹は生産割当増えたが原木入荷不足で仕入れに応じた生産。スギチップ出荷は減少傾向で推移、広葉樹は原木集荷不足に見合った出荷状況。
- ・東海地区ではチップ車の台数が不足、運転手が土木に転職、一部メーカーがエアサスペンション車の受け入れ制限している様子。針葉樹チップは増出荷基調、リサイクルチップは一部メーカー使用量減で受け入れ制限中。チップ在庫は針葉樹は減少、広葉樹は在庫なし。

## (木材チップ価格)

- ・スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹共に変動無し。
- ・スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹共に変わらず。
- ・変動なし。
- ・広葉樹チップは先月と変わらず。
- ・現在の輸入チップと国内チップ価格の中間くらいまで上げてもらわないと会社経営が行き詰まる。
- ・全く変化なし。FIT用チップは生計量で乾燥材では採算取れなかったが春から絶乾計量になる予定。FIT対応丸太価格上昇することは良いが、本来の趣旨である林地残材は、ほとんどなく製材用・製紙用が回っている感があり、このままでは全て燃料用になってしまうのではと危惧。チップ加工も採算良くない状況。
- ・1月から広葉樹を少し値上げ。
- ・針葉樹及び広葉樹共横ばい。